

フランスベッド株式会社

中村太一様（総務部人材開発課 課長）

五十嵐美咲様（総務部人材開発課 主任）

黒須和伸様（フランスベッドホールディングス

経営企画室 広報 IR 課 課長）

■企業プロフィール

本社所在地	東京都新宿区西新宿 6-22-1 新宿スクエアタワー5階
代表取締役社長	池田 茂
設立	1946年
社員数	1384名（平成27年9月末現在）
事業内容	① インテリア健康事業 ② メディカルサービス事業 ベッド、家具類、寝装品、健康機器、療養ベッド・福祉用具・リネン等の製造・仕入、レンタル・小売および卸売

■インタビュー

東京富士大学 伊波ゼミ（経営心理学科）

○上田梨央（4年）、李 晨（4年）、周 鴻志（4年）
油井光貴（3年）、岩垂貴明（3年）、青木広幸（2年）

■訪問日・2015年10月15日（木）



～貴社製品には、「日本製」と書かれたアイコンのつくものがあります。“Made in Japan”の理念と、それを大切にする理由を教えてください。

フランスベッド社では、品質チェックにとっても力を入れています。日本の国家標準である JIS 規格よりもさらに厳しい、フランスベッド社独自の FES (FRANCEBED ENGINEERING STANDARD) 規格が制定されており、すべての製品が徹底管理されています。お客様へ高品質の商品を提供し続けるフランスベッド社においては、国内生産であることを大切にしています。

また、国内生産であるということは、生産コストの問題はあったとしても、為替レートの変動に巻き込まれることがないため、安定した価格で提供することを可能にします。そして何よりも、高い技術力と繊細な構成力を誇る日本人が日本国内で作る品質の高さが、お客様の安心感を生み出しているのです。

～布団文化の歴史の長い日本において、ベッドという家具の提案は、設立当時かなり大胆な挑戦だったのではないかと思います。文化やライフスタイルの変革に取り組まれた姿勢や思いを教えてください。

これからの環境変化に対応し、西洋風のライフスタイルを取り入れることで、日本の文化を変革していくべきだという創業者・池田實の志のもと、ベッドの製造・販売に着手しました。1956年のことで、まだほとんどの日本人が布団を敷いて寝ていた時代です。

そこで当社では、日本人に受け入れやすいような商品開発の工夫を重ねてきました。

たとえば、布団に慣れた日本人には、欧米人よりも固めのマットが好まれます。また、外国人との骨格の違いについてもよく研究し、心地よい睡眠ができるように設計しました。さらに、高温多湿な日本の気候を考え、通気性も重視した「高密度連続スプリングマットレス」も考案しました。このマットレスは当社独自の構造と技術が特徴で、他の企業には真似できないものです。そして狭い住宅にも置けるよう、「昼はソファ、夜はベッド」になる分割式ソファベッドを開発し、一世を風靡しました。

このように当社は、「日本人の日本人による日本人のためのベッド」を作り上げることに尽力してきました。日本のすべての人々の暮らしの豊かさと潤いを、また生き生きとした暮らしができる高齢社会に向けて、先進的で独創的な商品・サービスを提供しようという思いを持って事業に取り組んでおります。

～一番売れている商品はどのようなものですか？特徴を教えてください。

当社の事業領域は、大きく『インテリア健康事業とメディカルサービス事業の2つ』にわかれています。

インテリア健康事業部門では、「New Life Treatment Mattress(ニュー・ライフ・トリートメント・マットレス)」シリーズが最も人気ある商品です。こちらの商品は4つのグレード、3つの硬さから、お客様の好みのマットレスを選ぶことができます。

本製品は、当社独自の「高密度連続スプリングマットレス」を採用しているため、優れた通気性、強度、耐久性を備え、腰や背中をしっかりと支えます。夏は暑く、冬は寒い環境の日本ですが、フランスベッドは暑い季節も、寒い季節も、心地よい眠りを届けるため、生地表面に織り込まれた特殊繊維の働きにより、暑い季節は温度が上がりやすく、寒い季節は温度が下がりやすくなるようにマットレスの温度変化を和らげる機能「ナノ・テンプ・サーモ」など、マットレス自体に付加価値を備え、四季を通じて質の高い眠りをサポートすることができます。

メディカルサービス事業部門では、超低床フローアーベッドが最も人気のある商品です。これは高齢者や認知症の方が就寝時にベッドからの転落を防ぐために開発されたベッドで、今までにない、安全対策が重視されています。最大の特長は、ボタンを押すことにより高さが自由に調節できることです。高さは 61 cm まで調節が可能なので、ベッドから車いすへの移乗時や、介助する方の負担を軽減します。

そして、従来品が通常、床上 30~40 cm の高さであるのに対し、このベッドでは床上 11 cm まで高さを下げられるので、立ち上がらずに、床面を座位移動・手足移動ができ、自立を促します。その際、24 cm の高さまで下がったところで、一旦自動で止まるように設定されているので、横にいる介助者の足や、物などの挟み込みを防ぎます。

このように布団とほぼ同じ高さで就寝できることで、ベッドの高さに不安を感じる方でも安心して利用でき、また、安全面での設計もしっかりつくられているため、とても人気の高い商品となっているのです。

～貴社のアジアへの展開に非常に興味があります。中国をはじめとする海外進出は、どのような方針をお持ちなのでしょう。

当社はこれまで、生産・販売ともほぼ 100% を日本国内に集中し、日本のベッド普及や医療・福祉用品の開発に多大な貢献をしてきました。今後当社は海外、特にアジアでの事業展開を重要な成長戦略のひとつに位置づけており、2012 年から中国での事業を開始しています。中国では現在急速に高齢化が進んでいるため、高齢者向けの医療・介護サービスに対するニーズが増大しています。今後、需要拡大が見込まれる病院・老人ホーム・在宅向け医療・介護用品市場への参入を狙ったのです。

まず 2012 年、中国国内における医療・介護用ベッド等の安定的生産体制を構築すべく、「江蘇英端集団」（江蘇省南通市）と「ダイソウ工業」（三重県津市）による合弁会社を江蘇省南通市に設立しました。資本金は 1000 万人民币元（約 1 億 3000 万円）で、出資比率はフランスベッドホールディングス 80%、江蘇英端集団有限公司 12%、ダイソウ工業 8% です。

～貴社の人材登用や人事制度の特徴を教えてください。

大きく 3 つの特徴を挙げるすることができます。

1 つめは、国籍にとらわれず、さまざまな人材を採用していること、

2 つめは、障害をお持ちになる方についても積極的に採用していること、そして

3 つめは、女性管理職を増やす方針にあることです。

当社では、日本国籍を持たない人や、障害をお持ちの方も積極的に採用しており、不安なく、安心して働くことができる環境にあります。

また現在、女性社員が全体の約 30%を占めている中で、女性の管理職を増やす計画を立てています。さらにワークライフバランス（仕事と生活の調和）という観点から、有給休暇を時間単位で取得できるなど、より利用しやすい制度を導入しています。このように子育てをする社員が働きやすい環境を作ることによって、女性社員の増加と定着を図っています。

■インタビュー所感

今回、私たちは、インタビュー訪問に先立って、本社以外の 2 つの事業所、メディカルショップ新宿店ならびに六本木ショールームの見学に伺いました。メディカルショップにおいては、福祉用具や住宅医療機器、療養ベッドに関して実物を見せていただきながら、「やさしさのある暮らし」を実現させるために、どのような工夫を重ねているのか、具体的かつ詳しい説明を承りました。一方、六本木ショールームにおいては、インテリア事業の要であるベッドならびにマットレスや寝具の開発や販売に関する工夫の数々を、営業経験豊かな方から直に伺うことができ、大変勉強になりました。オーダーメイド感覚で体にフィットした寝具やマットレスを選ぶということを実地で試す機会まで作っていただいたことに感謝しております。このとき長時間にわたり、私たち学生に対して親切にご対応くださいました佐藤遼平様、竹部敦司様はじめ、両事業所の皆さまに改めて御礼申し上げます。

これらの見学で学んだことを踏まえ、日本の環境・文化にあった高品質な商品を販売しているフランスベッド様本社を訪ね、ベッドや福祉サービスへの戦略、国内から国外（特にアジア）への進出などについてお伺いしてきました。

国内生産への思い入れを強く持ち、安心して使っていただける製品づくりにとても情熱を持っていることが印象的でした。特に品質チェックでは、日本の国家基準である J I S 規格よりも厳しい F E S 規格を採用しており、徹底した管理をしていることが分かりました。

さらに国内にとどまらず、国外にも目を向け、幅広く商品展開を行っていることを知りました。日本の医療・福祉用品の開発への貢献のみならず、海外の福祉サービスなどのニーズにも貢献しようと行動される姿勢は大変魅力を感じました。直接お会いしなければ聞けないような貴重なお話を聞かせて頂き、時間を忘れて聞き入ってしまいました。

このたびは大変お忙しい中、貴重な時間を割いて、私たちのインタビューに応じていただいた中村太一様、五十嵐美咲様、黒須和伸様をはじめ、フランスベッド株式会社の社員の皆さまには心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

（経営心理学科 3 年・岩垂貴明、伊波ゼミ GMT-1 グループ一同）